



OpenAI、「Sora 2」 の日本キャラ生成問 題で対策 権利者は 拒否可能に

22161241山口翔矢

概要

OpenAIのサム・アルトマンCEOは3日(米国時間)、自身のブログにおいて「Sora 2」の今後の変更方針を発表した。9月30日に公開したOpenAIの動画生成AIサービス「Sora 2」で、近日中に権利者にキャラクターの制御権限の機能を提供するほか、生成された動画内のキャラクターについての、権利者に対価を分配する方法を提供するとしている。

Sora 2については、高品質な音声付き動画が作成できる一方で、「ドラゴンボール」や「ポケモン」など日本のアニメやキャラクターに酷似したキャラクターが作成できるとして、公開直後から疑問の声が上がっていた。

対策のひとつが、権利者に対し、キャラクター生成に関する細かな制御権限を提供するもの。Sora 2では、自分の画像を動画に組み込める「カメラ」機能を提供し、その肖像権を自分で管理する仕組みを取り入れているが、その「肖像権のオプトインモデル」に近い、追加の制御機能を用意するという。その中には「一切使わせない」といった選択も可能となる。

2つめが、動画生成における収益化。ユーザーによるキャラクター生成を希望する権利保有者との収益分配を検討していく。具体的なモデルは検証が必要だが、早急に開始予定で、双方の価値を向上できるものを目指すという。

コメント

・ Sora2の生成機能は驚異的と感じています。と同時に、悪用や権利侵害の懸念を深刻に感じていました。そうした状況でSam Altmanの対応は、対策の一つとして望ましいと思います。しかし、サービスはすでにリリースされており、コンテンツは拡散を始めていることから後手に回った感はあるかと感じました。いずれにせよサービス提供側も、利用者側（生成者）も、そして著作権者のいずれもが声をあげ、意見交換を経て望ましい方向に進むことを願います。また、著作権問題と同時に悪用への対策も急務かと思います。

・ OpenAIが世界的な懸念に配慮し、技術と倫理のバランスを取ろうとしている姿勢は評価できますが、権利者にとって本当に実効性があり、公平な仕組みとなるかどうか、今後の焦点となりますね。

感想

著作権の規制が厳しくなること自体は賛成だが、AIの生成技術が高度になったことで著作権に引っかからないように創らせることも可能になるのではないかとは思った。